

子どもの読書活動支援ボランティアのための研修会

目的： 地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等も行える人材を養成する。

日時： 平成25年6月26日(水)・27日(木)・7月10日(水)

場所： 福島県立図書館

参加者： 50名

【参加者からの声】

今後も子どもたちに楽しい絵本をたくさん読んであげたいと思いました。

【1日目】

講演 「子どもと本と読書環境」

福島大学名誉教授 福島県子ども読書活動推進会議委員長 高野保夫氏

子どもの読書活動の現状と学校図書館の役割、読書環境作りの大切さについてお話しいただきました。

読み聞かせを通して「共感すること、安心感、やさしさ、温かさ」を伝えていくことや、本の楽しさに共感するためには一緒になって遊んでいる体験が大事であることや、開かれた学校図書館を目指すために共感を誘うような環境作りが大切であることなど、読書活動を推進していくために必要なことを確認することができました。



【参加者からの声】

学校図書館の必要性、読書活動の在り方など再認識できました。

講義① 「活動の意義について」

～学校図書館とは～

福島県教育庁県北教育事務所学校教育課

指導主事

安齋 憲治

～ボランティアとは～

福島県教育庁県北教育事務所総務社会教育課

社会教育主事

小野 忠大



県北教育事務所指導主事より、子どもたちの読書の現状や小学校の取り組み事例をもとに学校図書館の機能・役割、そしてこれからの学校図書館に求められる課題について説明がありました。

続いて、同事務所社会教育主事から、学校図書館ボランティアの役割や活動について説明がありました。また、学校図書館ボランティアが子ども読書活動推進にとって重要な役割を担っていることや学校

や公立図書館との連携が大切であることについて説明がありました。

【2日目】

講義② 「子どもへの図書館活動」～日々の実践から～

福島県立図書館 児童資料チーム 主任司書 吉田 久恵 氏

県立図書館の司書である吉田さんから、日々の実践の中で児童サービスについて感じていることを、実践例を交えながらお話しいただきました。

児童サービスに携わる際に大切である「子どもを知る」、「子どもの本を知る」、「子どもを本にいざなう技術を持つ」ということは、本と子どもたちを結びつけるボランティアにとっても大切であり、読書ボランティアの活動の意義を再認識することができました。

【参加者からの声】

図書に携わっている者として、まだまだ勉強が足りないと痛感しました。研修によって勉強したことを今後の実践に生かしていきたいです。



演習「読み聞かせの技術から子どもと本を結ぶ」～はじめの一步また一步～

J P I C 読書アドバイザー 児玉 ひろ美 氏



昨年度に続き、講師に児玉さんを迎え、「読み聞かせ」についての演習を実施しました。

児玉さんから、「選書のポイント」「読み聞かせの技術」「絵本の紹介」など、実際に絵本を手に取りながらお話しをいただきました。子どもとの一体感こそ読み聞かせの醍醐味であり、大人がそばにいてあげることがとても大事であるという言葉がとても印象的でした。

【参加者からの声】

本の選び方や読み方など具体的に学ぶことができました。とても分かりやすい講義でした。

これからもっと勉強して、知識や技能を身に付けていきたいです。そして一人でも多くの方に読み聞かせをして、絵本やお話しの楽しさを伝えていきたいです。

事例発表「図書ボランティアの会～これまでとこれから～」

図書ボランティアの会会長 中西 郁子 氏



図書ボランティアの会の活動は、福島市立図書館開館前の本の整理から始まりました。現在、読み聞かせ班、対面朗読班、手でさわる絵本班、図書修理班の4つの班に分かれて活動しています。特に手でさわる絵本班では、目が不自由な人に絵本を届けたいという一心から、試行錯誤の上に、点字の付いた絵本をこれまでに約270冊作りました。これは全国的にも数少ないすばらしい実践です。



「人生には挫折が多いが、立ち直って希望を持って行きたい…それが本にはある、図書館にはある。」という中西さんの言葉に、読書活動に携わる者への激励のメッセージが込められていると感じました。

【参加者からの声】

図書ボランティアの会の意識の高さや、知識や経験の深さに驚きました。手でさわる絵本はとてもすばらしかったです。

講義③ 「公共図書館とボランティアとの連携」

福島市立図書館 副主任司書 鈴木奈央子 氏 司書 森田 彩 氏

市立図書館と読書ボランティアのかかわりについて、これまでの実践事例を交えながらお話いただきました。市立図書館では、図書ボランティアの支援として、年4回の定例会と学習会を実施しています。内容は、図書の紹介やおはなし会の練習などを行い知識・技能の向上を図ったり、ボランティアの養成講座を継続して実施したりしています。

これからもボランティアの方々の相談に積極的に対応して、情報提供を行い、連携を図っていききたいとお話でした。



【参加者からの声】

行政や図書館とのネットワークを広げていきたいです。本の紹介はとても参考になりました。

交流会「子どもの読書活動推進について語り合おう！」



参加者全員が5つの班に分かれ、それぞれの立場から子どもの読書活動推進について意見交換をしました。

この3日間の研修を締めくくり、今後の活動につながる充実した話し合いがなされました。

【参加者からの声】

他のボランティアの活動の情報をいただいてとても参考になりました。今後の実践に生かしていきたいです。

読み聞かせサークル等の連絡協議会があると、活動の幅が広がり情報の共有ができてよいのではないかと思います。

学校、行政、ボランティアがうまく連携を図って、子どもたちのために活動できる体制作りをお願いしたいです。

御意見・要望・感想（参加者アンケートから）



- ・研修を通して新たな発見があり、とても参考になった。子どもたちのためにもこのような研修会を継続して実施してほしい。
- ・手遊び、わらべ唄、小物製作などの研修があってもいいと感じた。
- ・活動していく上では研修や情報は重要であると感じた。
- ・絵本を楽しみにしている子どもたちのために、研修によって勉強したことを生かしていきたい。

フォローアップ研修「ワークショップ形式での読み聞かせ技法」

J P I C 読書アドバイザー 児玉 ひろ美 氏



児玉さんのご好意で、昨年までの研修講座修了者を対象に、読み聞かせの技法等を高めるためのフォローアップ研修を実施しました。

研修生全員がそれぞれ絵本を持ち寄り、実際に読み聞かせを行いました。最後に児玉さんより一人一人に具体的なアドバイスと励ましの言葉をいただきました。

実践的でとても有意義な研修となりました。